

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

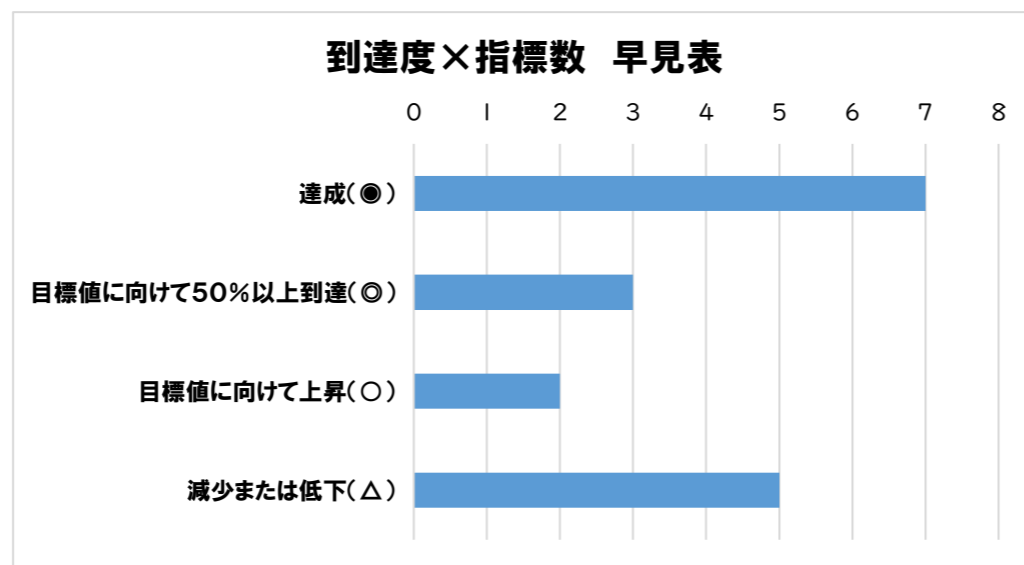
基本目標 1 一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | / | 指標数 |
| 7 | / | 17 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | / | 指標数 |
| 10 | / | 17 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に向けて上昇した指標数 | / | 指標数 |
| 12 | / | 17 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|---------------------------------|------------|------------|---------------|---------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 1 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合 | 63.1% | 75.0% | 62.3% | -6.7% | △ |
| 2 肺がん検診受診率 | 15.5% | 27.5% | 20.4% | 40.8% | ○ |
| 3 65歳以上のインフルエンザ予防接種受診率 | 34.0% | 50.0% | 32.7% | -8.1% | △ |
| 4 自殺死亡率(人口10万人あたりの自殺死者数) | 20.9人 | 15.5人 | 13.1人 | 144.4% | ● |
| 5 休日夜間急患診療所(一次救急)の年間患者取扱件数 | 13,018件 | 14,000件 | 11,854件 | -118.5% | △ |
| 6 二次救急での中度・重度患者の割合 | 12.1% | 17.0% | 17.2% | 104.1% | ● |
| 7 地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合 | 46.9% | 65.0% | 65.6% | 103.3% | ● |
| 8 患者満足度調査における満足度の割合 | 89.1% | 94.0% | 88.4% | -14.3% | △ |
| 9 高齢者が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合 | 54.6% | 57.0% | 60.8% | 258.3% | ● |
| 10 シルバー人材センターの会員数 | 894人 | 1,090人 | 993人 | 50.5% | ◎ |
| 11 介護予防講座受講者数 | 324人 | 536人 | 1,425人 | 519.3% | ● |
| 12 介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う市民の割合 | 47.3% | 65.0% | 54.0% | 37.9% | ○ |
| 13 介護サービス利用者の満足度の割合 | 62.3% | 70.0% | 68.1% | 91.5% | ◎ |
| 14 障がい者の地域移行率 | 39.0% | 45.2% | 51.1% | 195.2% | ● |
| 15 地域に支え合う人のつながりがあると思う市民の割合 | 41.9% | 46.0% | 44.9% | 73.2% | ◎ |
| 16 国民健康保険制度における特定健康診査の受診率 | 32.0% | 60.0% | 30.1% (速報) | -6.8% | △ |
| 17 保護受給世帯のうち、働ける世帯(その他世帯)の割合 | 21.8% | 20.0% | 11.4% | 577.8% | ● |

33.4%(確定)

～総括～

・17の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは7、目標値に向けて50%以上到達したものは10と、半数以上の指標が目標値に対して高い到達度を示し、「一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち」の達成に向けて掲げた指標の達成状況としては、市の取り組みが着実に成果を上げている結果と受け止めています。

・主な例としては、「⁹高齢者が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合」が上昇しており、「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言の理念の発信や、高齢の方の居場所づくりにもつながるシリウスの整備など、様々な施策の成果が寄与していることが考えられます。また、「⁷地域の診療所等から市立病院に紹介された患者の割合」が目標値を達成しており、地域医療を支える市立病院において、診療所や地域内の医療機関との連携が進んでいることが窺えます。加えて、介護サービスの質の確保・向上を進めた結果として「¹³介護サービス利用者の満足度の割合」も上昇しています。

・数値が減少(低下)しているものについて、「⁵休日夜間急患診療所(一次救急)の年間患者取扱件数」は目標を達成していないものの、日中のかかりつけ医などで診療を受ける適正受診が進み、減少していると捉えると、前向きな結果として受け止めることもできると考えます。また、「³65歳以上のインフルエンザ予防接種受診率」は積極的な接種勧奨とならないよう国の方針が示されていることを踏まえ、当初と比較しても大きな変動はありません。市立病院の「⁸患者満足度調査における満足度の割合」はわずかに低下していますが、引き続き、外来診察や会計での待ち時間の短縮などに努めていきます。

・健康づくりの知識の普及啓発や健康相談等の取り組みを進めてきた中で、「¹自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合」が横ばいで推移していることや、「¹⁶国民健康保険制度における特定健康診査の受診率」が伸び悩んでいることは特に課題と捉えています。高齢化の進展に伴って、今後、健康の持つ価値が一層高まることが想定され、健康都市やまと総合計画においては、基本目標を健康と福祉の分野に分割し、それぞれの充実を図っていることから、これらの課題を踏まえて、取り組みをさらに推進していく考えです。

成果を計る主な指標の達成状況の検証(課題となるものを抜粋)

① 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合

(達成状況に関する市の考え方)

・さまざまな機会を捉え健康づくりの啓発を行い、健康教室や健康相談等の利用者実績は増加しているものの、目標は達成できませんでした。今後も健康づくりの知識の普及啓発、健診後の個別相談等を通して、自主的な健康づくりの意識が高められるように努めます。

② ¹⁶国民健康保険制度における特定健康診査の受診率

(達成状況に関する市の考え方)

・対象者へのPRや受診勧奨に努めているものの、目標値には到達していません。国から示された値に基づき設定した目標値が現実から乖離していたことが原因と考えられます。一方で、県内19市との比較では上位に位置していることから、今後は現実に則した目標値を設定した上で、受診券様式の工夫等の受診率向上に引き続き努めます。

(総合計画審議会のコメント)

・基本目標1を構成する17の成果を計る主な指標のうち、当初の値から上昇したものが12、そのうち目標値を達成したものは7と、全体的に良好な達成状況を示しています。

・この背景として、「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言や、高齢の方の居場所ともなっているシリウスの整備、市立病院と地域の医療機関の連携が進んでいる点など、市の着実な取り組みが成果につながっているものと考えます。

・「¹⁶国民健康保険制度における特定健康診査の受診率」の向上は、健康・医療データを活用した科学的アプローチのもと、医療費の適正化を図っていく上で、その入り口ともいえるべき重要な要素です。当該受診率は県内では高い水準にあるものの、平成26年度をピークに減少傾向にある原因を追究するとともに、これまでの様々な取り組みの効果を見極め、データヘルス計画を活用しながら、さらに効果を上げていくよう努めてください。

・また、市民意識調査の「あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいる」と思う市民の割合は、現時点で6割以上の方が健康づくりに関心を持っている状況です。年齢を重ねると、一人ひとりの「元気」に対する考え方が変わっていくことも想定される中で、この指標の本質を見極めていくよう努め、市民の健康づくりに真に有効な事業に取り組みながら、健康都市やまと総合計画を推進し、引き続き、着実に施策を展開していかせてください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

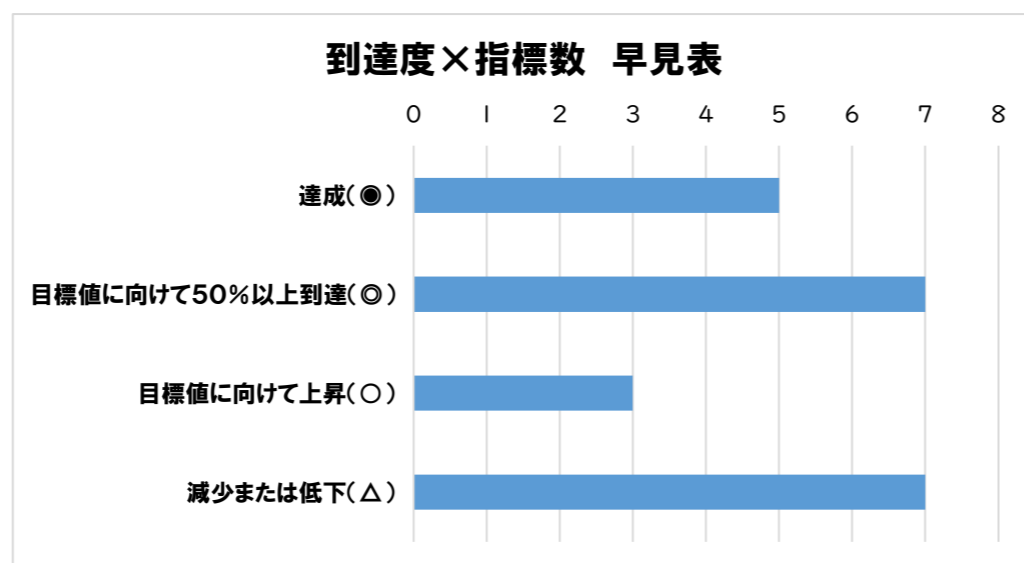
基本目標 2 子どもが生き生きと育つまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 5 | ／ | 22 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 12 | ／ | 22 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に向けて上昇した指標数 | ／ | 指標数 |
| 15 | ／ | 22 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|-----------------------------------|------------|------------|------------|-----------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 18 妊婦健康診査の平均受診回数 | 10.4回 | 14.0回 | 11.7回 | 36.1% | ○ |
| 19 4ヶ月児健康診査の受診率 | 96.2% | 98.0% | 97.9% | 94.4% | ◎ |
| 20 小学校の給食残食率(野菜) | 12.0% | 8.0% | 10.0% | 50.0% | ◎ |
| 21 学校PSメール世帯普及率 | 81.0% | 97.0% | 89.6% | 53.8% | ◎ |
| 22 子どもの交通事故の市内発生件数 | 139件 | 110件 | 67件 | 227.6% | ● |
| 23 将来の夢や目標をもっていると答えた児童・生徒の割合(小5) | 88.2% | 89.0% | 88.8% | 75.0% | ◎ |
| 24 将来の夢や目標をもっていると答えた児童・生徒の割合(中2) | 69.8% | 72.0% | 74.7% | 222.7% | ● |
| 25 児童・生徒の1か月の平均読書冊数(小4~6) | 11.3冊 | 14.0冊 | 16.0冊 | 174.1% | ● |
| 26 児童・生徒の1か月の平均読書冊数(中1~3) | 3.7冊 | 6.0冊 | 4.5冊 | 34.8% | ○ |
| 27 不登校児童・生徒の割合(小) | 0.57% | 0.25% | 1.01% | -137.5% | △ |
| 28 不登校児童・生徒の割合(中) | 3.53% | 2.22% | 4.39% | -65.6% | △ |
| 29 いじめ問題の解消率(小) | 95.8% | 100.0% | 88.5% | -7.3ポイント | △ |
| 30 いじめ問題の解消率(中) | 100.0% | 100.0% | 88.9% | -11.1ポイント | △ |
| 31 子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合 | 32.5% | 40.0% | 39.6% | 94.7% | ◎ |
| 32 特別支援教育ヘルパー充足率 | 92.0% | 100.0% | 97.8% | 72.5% | ◎ |
| 33 放課後子ども教室参加率 | 8.4% | 10.0% | 8.9% | 31.2% | ○ |
| 34 児童館の1日あたりの平均利用者数(全22館) | 451人 | 450人 | 401人 | -50人 | △ |
| 35 中高生ボランティア参加者数 | 115人 | 125人 | 54人 | -610.0% | △ |
| 36 子育てに関する不安を相談できる場があると思う市民の割合 | 47.7% | 60.0% | 58.5% | 87.8% | ◎ |
| 37 つどいの広場の1か所1か月あたりの平均利用者数 | 2,007人 | 2,200人 | 1,586人 | -218.1% | △ |
| 38 保育所の入所定員数 | 1,660人 | 3,185人 | 4,283人 | 141.2% | ● |
| 39 放課後児童クラブの待機児童数 | 0人 | 0人 | 0人 | 100.0% | ● |

～総括～

・22の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは5、目標値に向けて50%以上到達したものは12と、半数以上の指標が目標値に対して高い到達度を示しました。

・「¹⁹4ヶ月児健康診査の受診率」の上昇や、「²²子どもの交通事故の市内発生件数」の大幅な減少は、積極的な市の取組みが子どもの健康や安全の確保に寄与している成果と考えられます。また、保育所入所待機児童数が4年連続でゼロを達成したことに関わる「³⁸保育所の入所定員数」の確保と合わせ、「³⁹放課後児童クラブの待機児童数」もゼロを維持しており、「³子育てに関する不安を相談できる場があると思う市民の割合」が上昇していることから、市民が安心して子育てができる環境づくりが進んでいると捉えています。加えて、「^{25・26}児童・生徒の1か月の平均読書冊数」は、学校司書の全校配置などにより増加傾向にあります。

・数値が減少(低下)しているものとして、「^{27・28}不登校児童・生徒の割合」「^{29・30}いじめ問題の解消率」は、子どもの健全な成長を支えていく上で特に重要なテーマと捉えています。また、「³⁴児童館の1日当たりの平均利用者数」は子どもたちの居場所の選択肢が増えていることを背景として、「³⁵中高生ボランティア参加者数」はカウント対象となるボランティア機会の減少を原因に、共に目標を下回っています。加えて、「³⁷つどいの広場の1か所1か月あたりの平均利用者数」は、平成27年11月にオープンした施設において開所日数が制限されるなど1か所平均としての数値は当初より減少しています。健康都市やまと総合計画では、少子化が進む時代にあって、さらなる施策の充実を図るため、子育てと教育の分野に係る基本目標をそれぞれ独立させて設定しており、子どもの発達に応じたきめ細かな取り組みを一層進めていく考えです。

成果を計る主な指標の達成状況の検証(課題となるものを抜粋)

①^{27・28}不登校児童・生徒の割合(小・中) ※健康都市やまと総合計画では「不登校児童・生徒の改善状況」として指標を掲載(達成状況に関する市の考え方)

・数値については平成29年度まで横ばいで推移し、平成30年度に上昇しています。背景には、平成28年度に施行された教育機会確保法で、学校外での多様な学習活動の場の重要性が指摘され、不登校に対する従来の考え方が変容してきたことも挙げられると考えます。市においては、ベテルギウスに移転することで充実した教育支援教室(まほろば教室)の運営や、特別支援教育センター(アンダンテ)の開設など、一人ひとりの子どもたちへの多様な学習の場の提供にも力を入れています。引き続き、今後も、学校と教育委員会がより連携を強化し、新たな不登校を生まない体制づくりや早期対応に努めていく必要があります。

②^{29・30}いじめ問題の解消率(小・中)

(達成状況に関する市の考え方)

・国のいじめ防止基本方針の変更に伴い、平成29年度より、いじめ発生から3か月後がいじめ解消の確認月とされました。これにより、前年度いじめ解消率を捕捉する基準月である5月(全国的なとりまとめ月)時点で、発生から3か月未満となる2月、3月のいじめの解消は、解消率に反映できなくなったことから数値が減少しています。なお、現時点でこの数値を捕捉しなすと、解消率は小99.7%、中100%となり、ほとんどが解消につながっていますが、いじめへの対応はその性質上、継続していくことが重要であり、引き続き、各学校では、いじめ防止基本方針に則り、いじめ防止・早期発見・早期対応に取り組んでいく必要があります。

(総合計画審議会のコメント)

・基本目標2を構成する22の成果を計る主な指標のうち、目標を達成したものが5、当初の値から目標値に向けて上昇したものが15となっており、7割近くの指標は上昇につながっている概ね良好な達成状況です。

・この背景として、子どもに対する取り組みのスタートラインともいえる「¹⁹4ヶ月児健康診査の受診率」の上昇や、拡大する保育ニーズに対する「³⁸保育所の入所定員数」の継続的な確保など、子どもの健康や安全を守り、市民が安心して子育てをする環境づくりが進んでいると評価できます。

・「³⁵中高生ボランティア参加者数」は、子どもが日常の中でボランティア精神を育てていくために重要な取り組みの指標となります。ボランティア活動を通じて、今の中高生が将来の豊かな地域社会をつくっていくことを期待し、決められた機会の参加者数を伸ばすことだけでなく、地域参加の観点から自治会などでの多様な地域活動に展開するなど、ボランティア精神の醸成につながるような取り組みを進めていってください。

・また、いじめや不登校は、様々な要因が複合的に絡み合う問題であり、社会との接点が増えてくる多感な時期に、子どもが生き生きと希望を持つことができる環境を確保するためには、行政内部の横断的な連携を強化してこの問題に向き合うことが重要です。いじめや不登校が、時として子どもの命にも関わる大きな問題であることを踏まえて、行政だけでなく、地域の支援を得るなど、様々な対策も検討しながら、健康都市やまと総合計画の推進につなげていくよう努めてください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

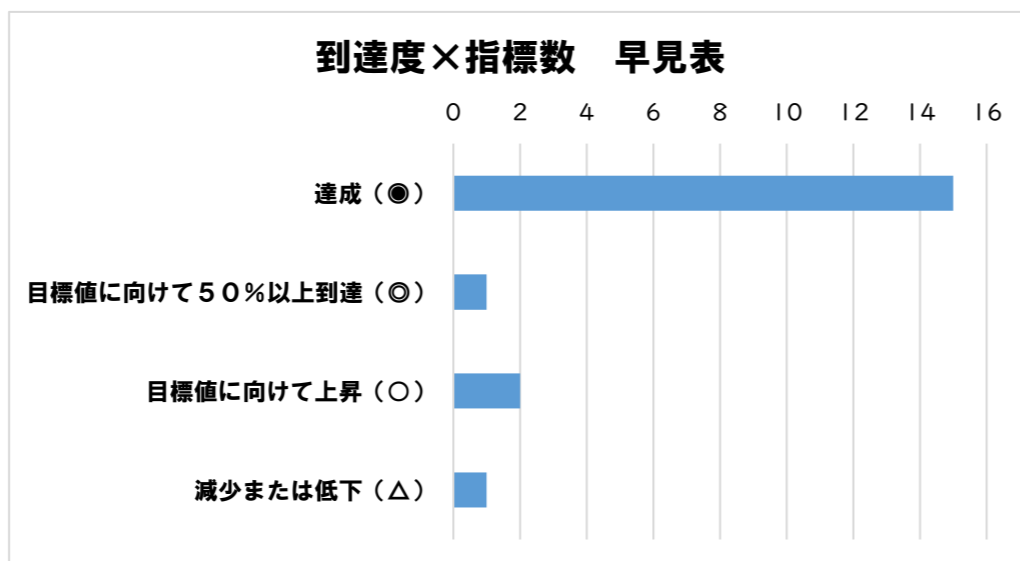
基本目標 3 安全と安心が感じられるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | / | 指標数 |
| 15 | / | 19 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | / | 指標数 |
| 16 | / | 19 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に向けて上昇した指標数 | / | 指標数 |
| 18 | / | 19 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|--|------------|---------------|------------|----------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 40 地域防災訓練を実施している自治会の割合 | 72.0% | 78.0% | 80.7% | 145.0% | ● |
| 41 市と避難行動要支援者名簿を共有している自治会の割合 | 66.4% | 78.0% | 100.0% | 289.7% | ● |
| 42 住宅の耐震化率 | 88.5% | 93.2% | 93.2% | 100.0% | ● |
| 43 地域で広域避難場所が知られていると思う市民の割合 | 66.8% | 70.3% | 72.7% | 168.6% | ● |
| 44 指定避難所等における想定避難者数に応じた非常食料の備蓄率 | 70.6% | 85.3% | 85.3% | 100.0% | ● |
| 45 防災講話の受講団体数 | 45団体 | 60団体 | 42団体 | -20.0% | △ |
| 46 防災上重要な公共建築物の耐震化率 | 97.7% | 100.0% | 99.4% | 73.9% | ◎ |
| 47 雨水整備率 | 68.2% | 69.0% | 69.2% | 125.0% | ● |
| 48 火災発生率(人口1万人あたりの火災発生件数) | 2.9件 | 2.6件 | 1.5件 | 473.3% | ● |
| 49 救命講習受講者資格取得者数(累計) | 21,411人 | 35,000人 | 42,890人 | 158.1% | ● |
| 50 救急車の医療機関到着までの所要時間 | 36.0分 | 36.0分 | 34.9分 | -1.1分 | ● |
| 51 以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う市民の割合 | 46.0% | 50.0% | 56.7% | 267.5% | ● |
| 52 年間犯罪発生件数 | 2,499件 | 2,100件 | 1,664件 | 209.3% | ● |
| 53 自主防犯活動団体数 | 188団体 | 228団体 | 192団体 | 10.0% | ○ |
| 54 交通人身事故発生件数 | 1,267件 | 1,100件 | 877件 | 233.5% | ● |
| 55 交通安全教室等参加者数(イベントを除く) | 20,187人 | 23,000人 | 21,099人 | 32.4% | ○ |
| 56 消費生活相談の苦情件数のうち完結済みの割合 | 99.5% | 99.5% | 99.6% | +0.1ポイント | ● |
| 57 家庭用品品質表示法・製品安全4法に係る立ち入り検査による適正表示の割合 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | ● |
| 58 時間帯補正等価騒音レベル(Lden) | 72.8 | 通減させるよう取り組みます | 60.8 | -12ポイント | ● |

～総括～

- ・19の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは15、目標値に向けて上昇したものは18と、ほぼすべての指標で成果を上げたといえます。
- ・⁴⁰地域防災訓練を実施している自治会の割合が目標値を上回り、⁴³地域で広域避難場所が知られていると思う市民の割合も上昇していることから、市民の防災意識が高まっていることが考えられる一方で、⁴⁵防災講話の受講団体数については想定ほど数字が上昇しなかったことで、唯一当初の値を下回りました。
- ・目標値を達成した指標の中でも、⁴¹市と避難行動要支援者名簿を共有している自治会の割合については、実際に名簿を活用して災害時に支援にあたる人の選定などの取り組みを進めていきます。また、⁴⁴指定避難所等における想定避難者数に応じた非常食料の備蓄率は公助に関する指標ですが、災害への備えは自らが行うことが基本であることを踏まえ、自助のさらなる意識啓発などに取り組むことが必要と考えています。
- ・⁵³自主防犯活動団体数は、新たに自主防犯活動を行う余裕のある団体が少なく伸び悩んでいます。また、⁵¹以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う市民の割合や⁵²年間犯罪発生件数は大幅に目標値を上回り、これまでの防犯等に関するハード面、ソフト面の取り組みが市民の体感治安の向上につながっていると捉えています。
- ・この間、様々な機関や団体等と連携しながら交通安全対策にも力を傾けてきた中で、⁵⁴交通人身事故発生件数も目標を達成し、また、⁵⁶消費生活相談の苦情件数のうち完結済みの割合が上昇していることから、安全安心につながる取り組みの結果が出てきています。あわせて基地対策についても、⁵⁸時間帯補正等価騒音レベル(Lden)で示す騒音の低減という形で成果を上げました。
- ・指標の達成状況を見ると、自然災害に対する備え、犯罪、交通事故などの日常生活のあらゆる場面で、安全や安心が感じられるまちの実現に向けて、確実に歩みを進められたものと考えています。健康都市やまと総合計画に基づき、今後も引き続き、様々な災害への備えや日々の暮らしの安全を守ることを通じて、市民が安心して毎日を送ることができるよう、努めていきます。

成果を計る主な指標の達成状況の検証(課題となるものを抜粋)

①⁴⁵防災講話の受講団体数

(達成状況に関する市の考え方)

・H27年度以降、年間40以上の団体が防災講話を受講しています。新たに受講を希望する団体を含め、毎年定期的に依頼はありますが、想定したほど受講団体数が伸びませんでした。自助を基本とするいざという時の備えの重要性や市民の防災意識がさらに広がっていくよう、より多くの受講団体に関心を持ってもらうための周知や講話内容の工夫等に努めていきます。

(総合計画審議会のコメント)

・基本目標3を構成する19の成果を計る主な指標のうち、目標値に向けて上昇したものは18、そのうち目標値に達したものが15と指標の達成状況は良い結果を表しています。

・この背景として、近年多発する自然災害への備えをはじめ、防犯や交通安全対策、基地対策など、日常生活の安全、安心につながる地道な取り組みが着実に進んできているものと評価できます。

・⁴⁵防災講話の受講団体数は最終年度において目標値を達成していませんが、目標値近くまで増加した年度もあります。さらなる防災意識の向上に向けて、災害時の正しい情報収集や、それをどのように実際の避難行動につなげていくか、などの意識啓発を講話を通じて実施するとともに、市と受講者が互いに防災について考える場となるよう取り組んでください。

・⁴¹市と避難行動要支援者名簿を共有している自治会の割合は、実績値が100%となり、全自治会と名簿の共有が完了したことで指標としての目標は達成しています。実際には、名簿を有効活用していかにより支援を行えるか、が重要であることから、災害時の実践的な支援につながるよう努めてください。また、⁴³地域で広域避難場所が知られていると思う市民の割合も目標を達成しているものの、さらなる上昇が必要と考えます。これまで、避難所は地震を想定した対応を前提としていることから、2019年に発生した台風で課題となった風水害の際の避難所運営の在り方を検討していただく。また、刻々と変化する状況を速やかに市民に伝え、適切な避難につなげるよう、IT機器に不慣れな方々にも配慮しながら「ヤマトSOS支援アプリ」や「やまとPSメール」のさらなる普及を進めてください。

・安全と安心が感じられるまちという視点において、市が行ってきた様々な事業は確実に成果を上げていることから、これらを継続して進めていくことはもちろん、指標の目標達成の先にある今後の課題もしっかりと見据えながら、着実に取り組みを進めていってください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

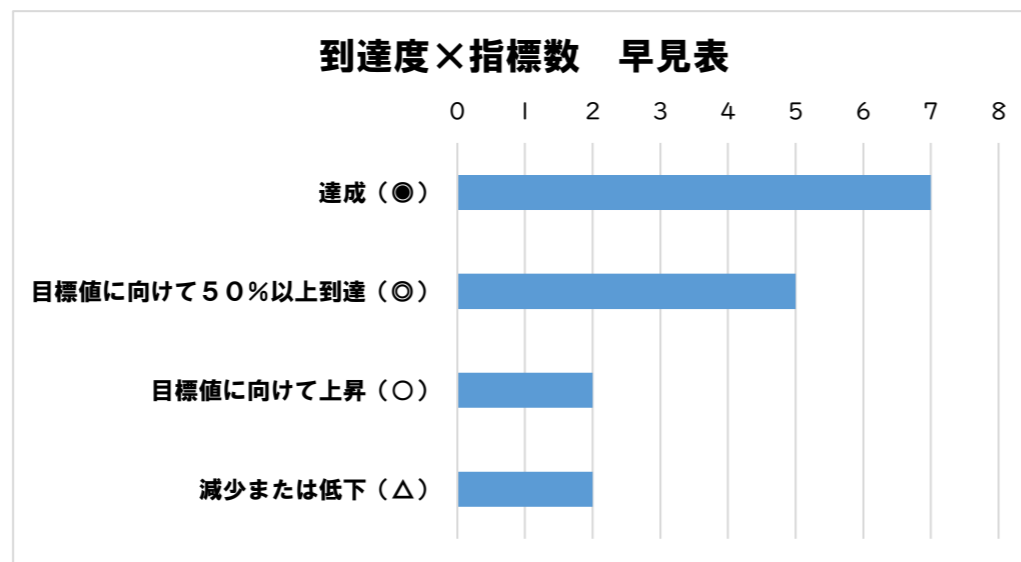
基本目標 4 環境を守り育てるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 7 | ／ | 16 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 12 | ／ | 16 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に向けて上昇した指標数 | ／ | 指標数 |
| 14 | ／ | 16 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|--|------------|------------|------------|----------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 59 環境に配慮している人が多いと思う市民の割合 | 49.3% | 67.0% | 50.0% | 4.0% | ○ |
| 60 1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合 | 104.3% | 79.2% | 106.4% | -8.4% | △ |
| 61 市民一人1日あたりのごみ排出量 | 459g | 412g | 420g | 83.0% | ◎ |
| 62 リサイクル率 | 21.9% | 32.0% | 27.7% | 57.4% | ◎ |
| 63 ごみ焼却灰の資源化率 | 19.8% | 55.0% | 91.2% | 202.8% | ● |
| 64 美化推進月間クリーンキャンペーン参加者数 | 3,468人 | 5,200人 | 3,554人 | 5.0% | ○ |
| 65 生物化学的酸素要求量(BOD)(境川) | 1.3mg/l | 3.0mg/l | 2.1mg/l | +0.8mg/l | ● |
| 66 生物化学的酸素要求量(BOD)(引地川) | 1.0mg/l | 2.0mg/l | 1.1mg/l | +0.1mg/l | ● |
| 67 下水道出前授業の実施校数 | 19校 | 20校 | 20校 | 100.0% | ● |
| 68 環境基準項目不適合率 | 7.0% | 4.2% | 5.4% | 57.1% | ◎ |
| 69 公害苦情件数 | 117件 | 111件 | 88件 | 483.3% | ● |
| 70 大和市には、緑や公園が多いと思う市民の割合 | 68.0% | 70.5% | 71.9% | 156.0% | ● |
| 71 民有地に設置された生垣延長(累計) | 591.9m | 720.0m | 708.6m | 91.1% | ◎ |
| 72 保全を図っている緑地面積 | 90.0ha | 92.9ha | 88.0ha | -69.0% | △ |
| 73 農地の利用権設定面積 | 4.6ha | 5.2ha | 7.2ha | 426.7% | ● |
| 74 市民農園区画数 | 863区画 | 950区画 | 931区画 | 78.2% | ◎ |

～総括～

- ・16の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは7、それを含めて目標値に向けて上昇したものは14と、ほぼすべての指標で成果を上げたといえられます。
- ・⁶⁰1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合は、これまで市独自の算出法で市内のCO2排出量を把握していたものの、この方法では省エネルギー機器の導入等によるCO2削減効果等を反映できなかったなどの事情により目標値に到達していません。しかしながら、環境省マニュアルに基づき再計算すると実績値は74.4%となり、目標値を上回る結果を得ることができています。
- ・また、⁶¹市民一人1日あたりのごみ排出量が減少し、⁶³ごみ焼却灰の資源化率が目標値を達成していることから、ごみの減量化、資源化が進み、循環型社会への歩みが進んでいることが窺えます。
- ・数値が減少しているものとして、⁷²保全を図っている緑地面積は、都市化が進み、開発等の影響を背景に減少傾向にあります。一方で、大和ゆりの森の園地の拡大など、公園面積が増えていることや、市民・事業者への緑化啓発に努めてきた中で、⁷⁰大和市には、緑や公園が多いと思う市民の割合が目標を達成しており、この結果を維持できるよう、適切な農地の活用などを含め、今後もまちの貴重な緑を保全していくことが重要であると捉えています。
- ・総じて、「環境を守り育てるまち」という大きな目標のもと、水や空気をきれいにし、ごみの減量化、緑地の保全などに取り組んできた成果は、確実に表れていると言えます。健康都市やまと総合計画では、都市の持続可能性を見据え、「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」を基本目標としており、街づくり計画・都市施設部門と連携しながら調和のとれたまちづくりを進めていきます。

成果を計る主な指標の達成状況の検証（課題となるものを抜粋）

①⁷²保全を図っている緑地面積

（達成状況に関する市の考え方）

・緑化啓発活動や保全緑地契約継続及び新規の契約により、緑地保全に努めてきましたが、目標値には到達しませんでした。原因については、市街化区域における開発等の影響により、保存樹木の解除が増加し緑地の減少が進んだことが挙げられます。保全緑地用地や保存樹木等の解約や解除を検討している地権者に対しては、他の制度をPRするなど緑地の減少抑止に努めていくとともに、多くの市民に豊かな自然を感じてもらえるような取り組みにも目を向けていくなど、様々な施策を展開していきます。

（総合計画審議会のコメント）

・基本目標4を構成する16の成果を計る主な指標のうち、目標値に向けて50%以上到達したものが12、そのうち目標値を達成したものは7と、指標の達成状況は概ね良い結果を表しています。一方で、⁵⁹環境に配慮している人が多いと思う市民の割合や⁶⁴美化推進月間クリーンキャンペーン参加者数の実績値は、目標に至っていないため、今後も継続的に課題意識を持ちながら、取り組みを進める必要があります。

・⁷²保全を図っている緑地面積の実績値は、当初の値を下回り、目標値から乖離した結果となっています。緑地の保全を環境分野だけでなく、防災や都市計画の分野と一体的に考えていくことが重要です。具体的には、市民等に理解を促すため、緑地に触れてもらう参加型の機会をつくることや、防災の観点から倒木の危険性が高い樹木を行政が伐採することで樹木を長期的に残してもらうなどの手法を検討していくことが重要です。また、こうした視点に加えて、建物の屋上緑化やまちの中に新たな緑を生み出していくなど、新たな発想に目を向けていくことも必要と考えます。

・⁶⁰1990年度と比較したエネルギー供給量等に基づく二酸化炭素排出量の割合のように、環境分野に関わる指標の中には、基準や考え方が時間の経過とともに変わっていくものもあり、短期間で十分な成果を計ることが困難な性質のものもあります。そのような施策を評価するにあたっては、時期を見定めながら、適宜、目標の見直しなどを行うことが肝要です。

・健康都市やまと総合計画では、環境、街づくり、都市施設の分野を一体とした「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」という基本目標を構成していることから、横断的な連携のもと、環境にやさしいまちを実現に近づけるため、充実した都市基盤整備を推進していくことが期待されます。この間、市が行ってきた環境を守り育てるための様々な取り組みが、今後さらに、まちの利便性や快適性の面と融合するよう、着実に取り組みを進めていってください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

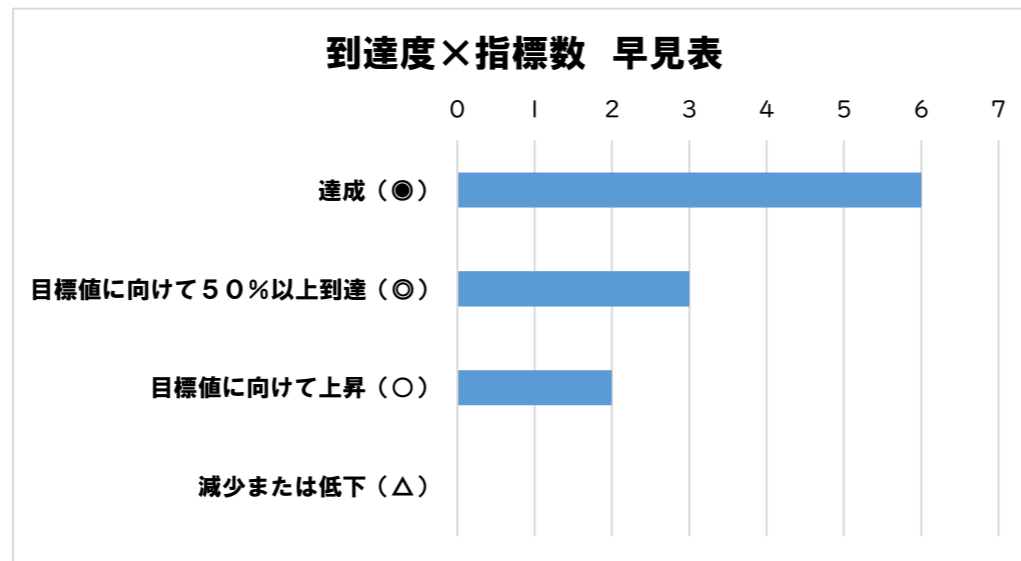
基本目標 5 快適な都市空間が整うまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に達した 指標数 | / | 指標数 |
| 6 | / | 11 |

| | | |
|-----------------------------|---|-----|
| 目標値に向けて 50%以上到達した 指標数 | / | 指標数 |
| 9 | / | 11 |

| | | |
|--------------------|---|-----|
| 目標値に向けて 上昇した指標数 | / | 指標数 |
| 11 | / | 11 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|--------------------------------------|------------|------------|------------|--------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 75 土地区画整理事業などによる市街地整備の割合 | 58.1% | 60.4% | 60.1% | 87.0% | ◎ |
| 76 プロムナードにおける1日あたりの通行者数 | 24,195人 | 26,350人 | 31,992人 | 361.8% | ● |
| 77 渋谷(南部地区)土地区画整理事業の進捗率 | 87.6% | — | 100.0% | 100.0% | ● |
| 78 大和市は、良好なまち並みが形成されていると思う市民の割合 | 44.7% | 52.0% | 53.1% | 115.1% | ● |
| 79 地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積(累計) | 121.8ha | 128.3ha | 128.3ha | 100.0% | ● |
| 80 都市計画道路の整備率 | 63.3% | 64.7% | 64.1% | 57.1% | ◎ |
| 81 市民1人あたりの都市公園面積 | 2.71㎡ | 4.00㎡ | 3.28㎡ | 44.2% | ○ |
| 82 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う市民の割合 | 75.8% | 82.0% | 76.5% | 11.3% | ○ |
| 83 コミュニティバスの利用者数 | 332,426人 | 721,500人 | 717,851人 | 99.1% | ◎ |
| 84 自転車走行空間の総延長 | 14.0km | 35.0km | 72.6km | 278.9% | ● |
| 85 適正駐輪率 | 98.7% | 99.0% | 99.7% | 333.3% | ● |

～総括～

- ・11の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは6、そして全ての指標が当初の値から上昇を示し、総じて良好な指標の達成状況であったと捉えています。
- ・⁷⁵土地区画整理事業などによる市街地整備の割合や⁷⁷渋谷(南部地区)土地区画整理事業の進捗率など、区画整理のハード面の計画的な実施や、市内の様々な都市空間整備が進んでおり、その結果として⁷⁸大和市は、良好な街並みが形成されていると思う市民の割合も目標を達成しました。このことから「快適な都市空間」にとどまらず、防災性の向上も含め、市が目指すまちの姿に前進しているものと捉えています。
- ・⁸¹市民1人あたりの都市公園面積は、これまでも大和ゆりの森の拡大などに努めてきており数値は上昇しています。今年度も雨水調整池などの防災機能と公園機能を兼ね備えたやまと防災パークを新たに整備するなど、取り組みの充実を図っており、限りある市域の中でも、引き続き様々な機会を捉えて、公園の確保に努めていきます。
- ・また、⁸³コミュニティバスの利用者数は、適宜、ルートの見直しやバスマップの作成などを行ってきたことにより、市民の移動手段として定着し、これまで増加が続いているものと考えています。
- ・まちづくりやインフラ整備、交通施策の充実などは、市民生活の根幹にかかわる取り組みであり、その推進に向けては、社会状況の変化などを見据え、今後のあるべきまちの姿を的確にとらえながら進めていく必要があります。健康都市やまと総合計画では、引き続き、充実した都市基盤を備え、市民の生活を快適なものとするため、基本目標を「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」としており、まちの利便性と快適性の維持、充実を図ることで持続可能な都市となるよう努めていきます。

(総合計画審議会のコメント)

- ・基本目標5を構成する11の成果を計る主な指標のうち、目標値を達成したものが6、そして全ての指標が当初の値から上昇しました。
- ・基本目標5における主な取り組みの内容が、まちづくりやインフラなどの計画に基づく整備であることを踏まえても、全ての指標が当初の値から上昇したことは評価できます。
- ・一方で、これからのまちづくりを考える上では、近年勢いを増す気象災害への対応などの防災の観点や、環境分野における緑地の減少を意識した総合的かつ戦略的発想が必要と考えます。
- ・⁷⁸大和市は、良好なまち並みが形成されていると思う市民の割合は目標を達成しているものの、全体の約半数という実態をふまえると、生活道路の安全性や利便性の向上に向けてさらなる基盤整備を進めることや、地区計画によって建物の敷地面積を一定規模以上に制限するなど、防災や日照の面に配慮した、よりよい住環境づくりを進めていく必要があると考えます。また、大規模災害発生時に脆弱な面を見せる密集市街地には、まちの安全性を高めるため、防災機能を備えた公園を新たに整備していくことも有効と考えます。こうした一定の基盤整備を進めるためには、土地の取得も必要になることから、2022年に期限を迎える多くの生産緑地の動向を見据え、行政として必要な用地の確保について、検討を進めていくことも重要です。
- ・人口減少社会の進展に伴い、大和市でも今後、空家の増加がまちの課題となっていくことが考えられます。転居や相続などにより空家になる可能性のある住宅等が、適切な市場の流通につながるよう、行政として、ハード面、ソフト面を合わせた必要な検討を進めるなど、空家を生まない取り組みにも目を向けていってください。
- ・健康都市やまと総合計画では、街づくり、都市施設、環境の分野を一体とした「環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち」という基本目標を構成していることから、横断的な連携のもと、充実した都市基盤の整備を進めながら、環境にもやさしいまちを実現していくことが期待されます。ストックが増えることで目標を上回った指標の達成状況に満足することなく、今後も、既存施設の適切なメンテナンスや、より良いものに再整備するといった視点も大切にしながら、まちの快適性や利便性を高める取り組みを進めていってください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

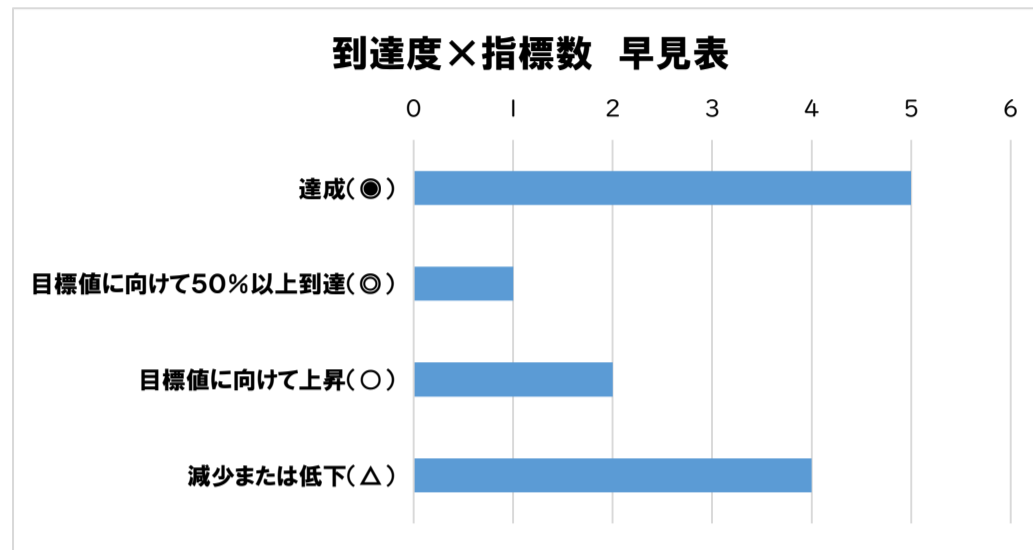
基本目標 6 豊かな心を育むまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に達した 指標数 | / | 指標数 |
| 5 | / | 12 |

| | | |
|-----------------------------|---|-----|
| 目標値に向けて 50%以上到達した 指標数 | / | 指標数 |
| 6 | / | 12 |

| | | |
|--------------------|---|-----|
| 目標値に向けて 上昇した指標数 | / | 指標数 |
| 8 | / | 12 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|------------------------------------|------------|------------|------------|---------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 86 市民1人あたりの学習センター年間利用回数 | 4.11回 | 4.6回 | 3.44回 | -142.6% | △ |
| 87 団体企画提案の地域学習交流事業・市共催事業数 | 90件 | 133件 | 99件 | 20.9% | ○ |
| 88 市民1人あたりの年間図書貸出冊数 | 4.60冊 | 5.87冊 | 6.36冊 | 138.6% | ● |
| 89 図書館や保育所などのおはなし会の延べ参加者数 | 1,933人 | 2,580人 | 3,387人 | 224.7% | ● |
| 90 日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合 | 36.1% | 37.5% | 34.8% | -92.9% | △ |
| 91 市民1人あたりの公共スポーツ施設年間利用回数 | 5.79回 | 6.85回 | 5.90回 | 10.4% | ○ |
| 92 総合型地域スポーツクラブの設置数 | 0団体 | 2団体 | 3団体 | 150.0% | ● |
| 93 文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合 | 42.4% | 56.4% | 60.2% | 127.1% | ● |
| 94 YAMATO ART100来場者数 | 105,484人 | 115,000人 | 100,908人 | -48.1% | △ |
| 95 芸術文化ホール年間利用者数 | 0人 | 230,000人 | 255,465人 | 111.1% | ● |
| 96 大和市の歴史や文化は、しっかりと継承されていると思う市民の割合 | 41.5% | 42.9% | 42.3% | 57.1% | ◎ |
| 97 歴史文化施設の利用者数 | 48,339人 | 51,300人 | 34,331人 | -473.1% | △ |

～総括～

・12の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは5、目標値に向けて上昇したものは8となり、多くの指標が目標値に向けて上昇しました。

・⁸⁸市民1人あたりの年間図書貸出冊数⁸⁹図書館や保育所などのおはなし会の延べ参加者数⁹⁵芸術文化ホール年間利用者数が目標を達成していることは、大和市立図書館、やまと芸術文化ホールを備え、平成28年度に開館した文化創造拠点シリウスの盛況ぶりが、ありのままに表れている良好な結果と捉えています。また、これらをアウトプットとして、⁹³文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合も当初の値から大きく上昇し、目標を上回っています。

・数値が減少(低下)しているものとして、⁹⁰日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合は、スポーツに関わる様々なイベントの開催や施設の改修等の環境整備に努めてきた中で、当初の値から低下しており、課題と捉えています。また、⁹⁷歴史文化施設の利用者数は、近年減少傾向にあり、引き続き、施設の個性や魅力を伝えていくことが重要です。

・⁸⁶市民1人あたりの学習センター年間利用回数は、会議室等の利用人数をもとに算出している指標であり、目標値を下回っているものの、シリウスやポラリスでは、従来の会議室に代えて誰もが自由に使える市民交流スペースを整備したことに伴い、実態としては増加につながっています。⁹⁴YAMATO ART100来場者数は、最終年度においては目標を下回った一方で、過去には目標を達成した年度もあり、天候等の影響でばらつきが生じていますが、今後も多くの市民が文化芸術に触れられる機会を提供していく必要があります。

・「豊かな心を育むまち」の実現に寄与する取り組みのうち、特に読書や学び、文化芸術に関する分野は、市を代表するシリウスの完成に伴い、一定の成果を上げることができました。健康都市やまと総合計画においては、基本目標を「豊かな心と感動が広がるまち」としており、市民の豊かな心の形成や感動の広がりにつながる取り組みを一層推進していく考えです。

成果を計る主な指標の達成状況の検証（課題となるものを抜粋）

①⁹⁰日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合

（達成状況に関する市の考え方）

・各種スポーツ教室や13ヶ国2,500人以上の方が参加したYAMATO WORLD SPORTS FESTIVAL 2018の開催、スポーツ施設の改修等、様々な取り組みを進めてきましたが、数値はほぼ横ばいで推移し、目標値を達成できませんでした。近年では、様々なスポーツ活動やスポーツイベントなどへの参加を対象に健康ポイントを付与するなど、健康づくりの側面からスポーツに取り組んでもらうアプローチも進めているところであり、東京オリンピックの開催等によるスポーツの需要も高まっていることから、平成31年4月に策定した「第2期大和市スポーツ推進計画」に基づき、新たにスポーツによって地域の絆や健康へ「つながる」視点を持ちながら、今後も引き続き、スポーツへの意識を高められるようなイベントの開催等、施策を展開していきます。

②⁹⁷歴史文化施設の利用者数

（達成状況に関する市の考え方）

・各施設とも企画内容や天候によって利用者数に変動がある中で、近年減少傾向にあります。一方で、施設の利用者数には直接表れないものの、大和市の歴史文化の継承に寄与する取り組みとして、当該施設の一部の資料を文化創造拠点シリウスに移設するなど、より多くの方の目に触れるような工夫などを行っているところです。今後も引き続き、施設の個性や魅力を伝える取り組みに努めます。

（総合計画審議会のコメント）

・基本目標6を構成する12の成果を計る主な指標のうち、目標値に向けて上昇したものは8、そのうち目標値を達成したものが5と、概ね良好な達成状況を示しています。

・この背景として、文化創造拠点シリウスの完成等に伴い、豊かな感性を育む環境づくりが進み、特に読書や学び、文化芸術における市民の活動も活発になってきているものと評価できます。今後は、施設利用が盛況であるが故に生じる課題などへの対応も検討するとともに、学習センターの地区館などにおける利用傾向を分析していくことも重要です。

・⁹⁰日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合については、競技としてだけでなく、日頃から仲間と気軽に楽しむものでも立派なスポーツであるといった意識の醸成を図りながら、スポーツをみる、支えるという視点も含めて、裾野を広げる取り組みを進めてください。また、「YAMATO WORLD SPORTS FESTIVAL」は、多くの国や地域の方の参加のもとで成功を収めたことを契機に、継続的な開催も視野に入れ、国際交流とスポーツ、両分野の発展につながる大和市ならではの取り組みとなるよう努めてください。

・⁹⁷歴史文化施設の利用者数は、健康都市大学の会場としての利用や健康ポイントの付与、インバウンドを意識した外国人向けのPRや飲食店なども絡めた企画など、様々な分野の取り組みとの連携により、改善が期待できると考えます。利用者数の減少傾向が表れている今だからこそ、これまでの取り組みをもう一度見直し、積極的かつ幅広い世代にわかりやすい周知などを検討することも重要です。

・文化創造拠点が整い、市民の活動などの活発化により達成した指標の上昇結果に満足することなく、引き続き、豊かな心の醸成に寄与する取り組みを着実に進めていってください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証（1/2）

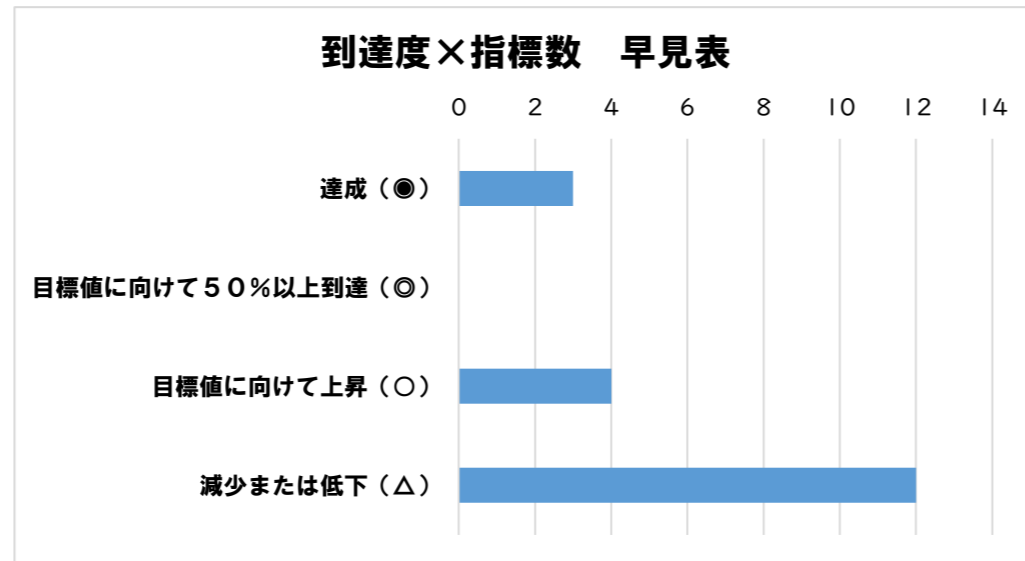
基本目標 7 市民の活力があふれるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 3 | ／ | 19 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 3 | ／ | 19 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に向けて上昇した指標数 | ／ | 指標数 |
| 7 | ／ | 19 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|-----------------------------|------------|------------|------------|----------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 98 地域に差別意識はないと思う市民の割合 | 65.8% | 75.0% | 66.7% | 9.8% | ○ |
| 99 男女が平等であると感じる市民の割合 | 22.4% | 35.0% | 21.9% | -4.0% | △ |
| 100 審議会、委員会などにおける女性委員の割合 | 23.8% | 50.0% | 29.7% | 22.5% | ○ |
| 101 国際交流が行われていると思う市民の割合 | 19.5% | 30.0% | 31.3% | 112.4% | ● |
| 102 外国人を支援するボランティア登録者数 | 245人 | 300人 | 341人 | 174.5% | ● |
| 103 大和市は、買い物しやすいと思う市民の割合 | 70.1% | 75.0% | 71.0% | 18.4% | ○ |
| 104 市内事業者が商店会等に参加している割合 | 76.3% | 77.0% | 64.4% | -1700.0% | △ |
| 105 法人設立数 | 309件 | 320件 | 267件 | -381.8% | △ |
| 106 市内事業所従業者数 | 76,316人 | 80,000人 | 76,799人 | 13.1% | ○ |
| 107 勤労者サービスセンターの加入者数 | 3,912人 | 4,150人 | 3,235人 | -284.5% | △ |
| 108 直売所などで販売する農家数 | 146軒 | 146軒 | 146軒 | 100.0% | ● |
| 109 朝霧市、タヤけ市、おさんぽマートの年間開催回数 | 202回 | 200回 | 153回 | -49回 | △ |
| 110 観光イベント・施設の総来場者数 | 1,497,380人 | 1,540,000人 | 1,371,693人 | -294.9% | △ |
| 111 フィルムコミッションで対応した撮影件数 | 60件 | 72件 | 46件 | -116.7% | △ |
| 112 地域活動に参加している市民等の割合 | 25.9% | 33.0% | 24.2% | -23.9% | △ |
| 113 自治会への加入世帯割合 | 70.7% | 73.7% | 64.8% | -196.3% | △ |
| 114 コミュニティセンターの利用者数 | 345,114人 | 366,000人 | 314,832人 | -145.0% | △ |
| 115 NPO法人数 | 67団体 | 97団体 | 66団体 | -3.3% | △ |
| 116 市民活動センター利用登録団体数 | 220団体 | 264団体 | 180団体 | -90.9% | △ |

～総括～

・19の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは3、当初の値から上昇したものは7となりましたが、多くの指標が目標値に対する到達度に課題を残しました。

・⁹⁹男女が平等であると感じる市民の割合は、当初の値と比較してほぼ横ばいという結果が表れており、引き続き意識啓発などに取り組んでいく必要があると捉えています。¹⁰¹国際交流が行われていると思う市民の割合は、今回の市民意識調査から「多文化共生」のキーワードを加え「あなたのまわりでは、多文化共生や国際交流が行われていると思う」という設問で測定しており、過去と同一の比較とはならないものの、数値は上昇しました。また、これにあわせ、¹⁰²外国人を支援するボランティア登録者数も増加しており、(公財)大和市国際化協会と連携した外国人市民に対する継続的な支援や、多文化共生の推進に取り組んできた成果が表れているものと考えられます。

・¹⁰⁴市内事業者が商店会等に参加している割合は、商店の減少などにより解散してしまう商店会組織も出てきている背景の中で目標を下回っており、¹⁰⁵法人設立数は、最終年度の数値は当初の値から減少していますが、目標を達成した年度もあり、引き続き、起業への支援に努めていく必要があります。また、¹⁰⁷勤労者サービスセンターの加入者数は市内事業所数の減少などの理由から減っている傾向にあるものと捉えています。

・¹⁰⁹朝霧市、タヤけ市、おさんぽマートの年間開催回数は、平成29年度から週2回程度の開催であったおさんぽマートを週1回へ、¹¹¹フィルムコミッションで対応した撮影件数は、平成28年度から撮影の誘致にあたってシティセールスに結びつく作品に限定するなど、それぞれ方針を変更したことを理由として目標を下回っています。加えて、¹¹⁶市民活動センター利用登録団体数は、平成30年度のセンター移転により、従前の登録を一度リセットし、再登録を行ったことから、実績値が減少しています。

・¹¹⁰観光イベント・施設の総来場者数については、天候の影響を大きく受け、年度によって人数にばらつきが生じており、最終年度は低い実績値となりましたが、目標を達成している年度もあり、健康都市やまと総合計画ではより適切な指標管理を行うため、指標をイベントと施設、それぞれの来場者数で区分しています。¹¹⁴コミュニティセンターの利用者数は平成28年度以降、大規模改修工事で約半年間閉館していた会館があるなどの理由から減少しています。

・¹¹²地域活動に参加している市民等の割合、¹¹³自治会への加入世帯割合、¹¹⁵NPO法人数が目標を達成しなかった背景の一部には、高齢化という問題もあると捉えています。地域のつながりや市民活動はまちに活力を与える大切な要素であることから、行政が取り組むことのできる役割を見極めながら、今後の支援や環境づくりに努めていく必要があります。

・少子高齢化や人口減少などによって、社会経済全体の規模が縮小することが懸念される中であって、まちのにぎわいや市域全体を活性化していくことは重要なテーマであると受け止めています。健康都市やまと総合計画では、年齢・性別・国境などの違いを超えて相互に認めあう社会を形成するとともに、企業活動振興条例などのもと、地域経済の振興やまちのにぎわいの創出を図りながら、地域活動を活性化していくことを通して、引き続き、市民の活力があふれるまちづくりに取り組んでいきます。

(総合計画審議会のコメント)

・基本目標7を構成する19の成果を計る主な指標のうち、目標値に向けて上昇したものは7、そのうち目標値を達成したものが3と、達成状況を見渡すと、やむを得ない事情で目標値に近づけなかった指標もある一方で、様々な課題も残っている印象です。

・¹⁰⁴市内事業者が商店会等に参加している割合と¹¹³自治会への加入世帯割合の低下については、社会状況や人々の価値観が変化してきた中で、「加入するメリット」がわからなくなっていることが背景として考えられます。商店会組織が活力あふれる社会に向けて果たす役割について、商工会議所などとも協力し、検討していくべき時期に来ているかもしれません。また、商店会等への加入割合においては、商店数の減少との関連も検証することが必要です。商店数の減少に対しては、商売したい人と場を結びつけるマッチングに行政が関与していくことなども有効と考えます。

・自治会の加入世帯割合の低下は、多くの自治体で抱える課題である一方、日頃からの助け合いや地域活動の活性化等の観点から、改善を図らなければならぬと考えます。加入世帯割合の向上に向けて、自治会は、地域としての災害への備えや、子どもの見守りなど市民生活を支えている大切な存在であることの理解を広めるとともに、未加入世帯の状況などを分析し、自治会連絡協議会と協力しながら、より効果的な対策を検討してください。

・¹⁰⁵法人設立数に関しては、目標値に到達していないものの、後期基本計画期間の平均値をみると年間300件程度となっています。新規に設立される市内の法人数が、同じ年度に減じた法人数よりも多いことから、市内経済の活性化の観点から総合的には良い傾向にあると考えます。起業支援にあたっては、大和市に多くの国と地域の方が住んでいる特徴も踏まえた外国人の起業や、高齢化する社会への対応策としてNPO法人の設立支援に着目していくことも検討してください。

・基本目標7の分野は、社会経済状況の変化など、日本全体の大きな課題の影響を受けている面もあり、変化のその先にあるものをどのように先取りしていくのか、7つの基本目標の中でも最も難しい問題に直面していると言っても過言ではないと考えます。健康都市やまと総合計画においても、引き続き基本目標とした「市民の活力があふれるまち」の実現に向けて、地域の住民や産業に関わる人などをはじめ、行政が多様な主体と積極的に関わりながら、地域活動や市内経済の振興、市域全体の活性化に努めてください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証（2/2）

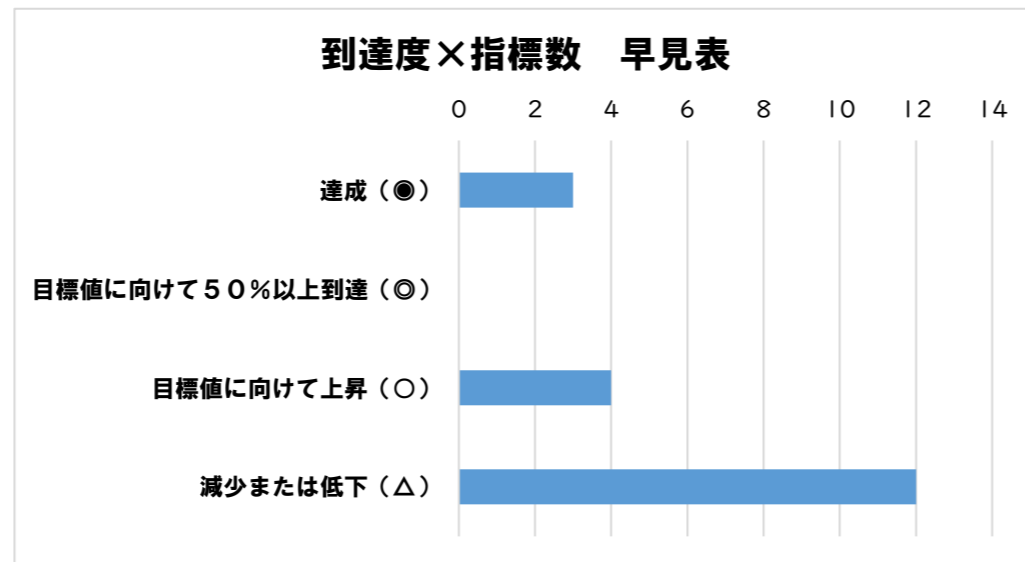
基本目標 7 市民の活力があふれるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に達した 指標数 | / | 指標数 |
| 3 | / | 19 |

| | | |
|-----------------------------|---|-----|
| 目標値に向けて 50%以上到達した 指標数 | / | 指標数 |
| 3 | / | 19 |

| | | |
|--------------------|---|-----|
| 目標値に向けて 上昇した指標数 | / | 指標数 |
| 7 | / | 19 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|-----------------------------|------------|------------|------------|----------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 98 地域に差別意識はないと思う市民の割合 | 65.8% | 75.0% | 66.7% | 9.8% | ○ |
| 99 男女が平等であると感じる市民の割合 | 22.4% | 35.0% | 21.9% | -4.0% | △ |
| 100 審議会、委員会などにおける女性委員の割合 | 23.8% | 50.0% | 29.7% | 22.5% | ○ |
| 101 国際交流が行われていると思う市民の割合 | 19.5% | 30.0% | 31.3% | 112.4% | ● |
| 102 外国人を支援するボランティア登録者数 | 245人 | 300人 | 341人 | 174.5% | ● |
| 103 大和市は、買い物がしやすいと思う市民の割合 | 70.1% | 75.0% | 71.0% | 18.4% | ○ |
| 104 市内商業者が商店会等に参加している割合 | 76.3% | 77.0% | 64.4% | -1700.0% | △ |
| 105 法人設立数 | 309件 | 320件 | 267件 | -381.8% | △ |
| 106 市内事業所従業者数 | 76,316人 | 80,000人 | 76,799人 | 13.1% | ○ |
| 107 勤労者サービスセンターの加入者数 | 3,912人 | 4,150人 | 3,235人 | -284.5% | △ |
| 108 直売所などで販売する農家数 | 146軒 | 146軒 | 146軒 | 100.0% | ● |
| 109 朝霧市、タヤけ市、おさんぽマートの年間開催回数 | 202回 | 200回 | 153回 | -49回 | △ |
| 110 観光イベント・施設の総来場者数 | 1,497,380人 | 1,540,000人 | 1,371,693人 | -294.9% | △ |
| 111 フィルムコミッションで対応した撮影件数 | 60件 | 72件 | 46件 | -116.7% | △ |
| 112 地域活動に参加している市民等の割合 | 25.9% | 33.0% | 24.2% | -23.9% | △ |
| 113 自治会への加入世帯割合 | 70.7% | 73.7% | 64.8% | -196.3% | △ |
| 114 コミュニティセンターの利用者数 | 345,114人 | 366,000人 | 314,832人 | -145.0% | △ |
| 115 NPO法人数 | 67団体 | 97団体 | 66団体 | -3.3% | △ |
| 116 市民活動センター利用登録団体数 | 220団体 | 264団体 | 180団体 | -90.9% | △ |

成果を計る主な指標の達成状況の検証（課題となるものを抜粋）

①¹⁰⁴市内商業者が商店会等に参加している割合

（達成状況に関する市の考え方）

・商店の減少や後継者不足の問題等により、解散してしまう商店会組織も出てきており、市内商業者が商店会等に参加している割合は低下している傾向にあります。しかしながら、商店街はまちのにぎわいを生み、安全・安心・防犯などの地域貢献機能を担っていることから、引き続き、大和市商業戦略計画に基づき、地域の活性化に資する商店街団体の取組みを支援していきます。

②¹⁰⁵法人設立数

（達成状況に関する市の考え方）

・「大和市創業支援事業計画」に則り、融資や相談等、起業家に対する支援を展開しており、メニューの充実にも努めている中、ここ数年は法人設立数が横ばいで推移していますが、後期基本計画期間中には目標を達成した年度もあり、平均すると年間約300件程度の法人が設立されています。また、全体の傾向としては、市内事業所数や¹⁰⁶市内事業所従業者数も平成24年の値と比較して一定の数を維持している現状です。平成30年度からは、市民活動拠点ベテルギウス内に起業家支援スペースを設けるなどの取組みも進めており、引き続き、起業も含めた市内の経済活動の活性化に努めていきます。

③¹¹²地域活動に参加している市民等の割合

④¹¹³自治会への加入世帯割合

（達成状況に関する市の考え方）

・地域活動に参加している市民等の割合、自治会への加入世帯割合は、相互に深く関わっている指標であり、これまでも自治会連絡協議会の運営や自治会活動の支援をはじめ、コミュニティセンターの施設改修や各種事業の充実を図ってきましたが、目標値を達成できませんでした。背景には、いまだ本市の人口が微増にある状況の中でも、少子高齢化や共働き世帯の増加などに伴い、地域活動などへ費やす労力や時間的負担への抵抗感の影響があると考えられます。一方で、災害時における共助の考え方や支え合いによる福祉の視点など、地域で助け合うことの必要性は高まっており、引き続き、地域活動の基盤である自治会活動への支援や自治会が果たす役割について周知啓発を進めるとともに、利用しやすいコミュニティセンターの環境整備を通じて活動拠点の充実を図るなど、地域間交流の広がりや、防犯防災活動等による安心安全な地域づくりにつながるよう、努めていく必要があります。